

授業科目名	リプロダクティブ・ヘルス <i>Reproductive Health</i>					担当教員	永松 美雪				
開講年次	1年通年	セメスター	1			時間数(単位数)	30(2)				
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義			使用教室					
授業の目的	国の人口政策や経済問題などとも深くかかわるリプロダクティブ・ヘルスの課題について、先進国、途上国の現状を多角的に分析し、その対応について考察する。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リプロダクティブ・ヘルスの課題をめぐる背景と現状について理解できる 2. リプロダクティブ・ヘルスの課題に対する助産師の支援を考察できる 3. 健康教育について学び、リプロダクティブ・ヘルスに関する健康教育の指導および相談等の対応について考察できる 4. 受胎調節実施指導の資格取得の申請ができるようになる 										
DPとの関連	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6 (保健)	DP6 (CNS)	DP7 (CNS)	DP6 (助産)	DP7 (助産)	DP8 (助産)
									◎	○	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回 途上国のリプロダクティブ・ヘルスの課題(プレゼンテーション) 2回 途上国のリプロダクティブ・ヘルスの支援と予防対策(プレゼンテーション) 3回 先進国のリプロダクティブ・ヘルスの課題(プレゼンテーション) 4回 先進国のリプロダクティブ・ヘルスの支援と予防対策(プレゼンテーション) 5回 日本のリプロダクティブ・ヘルスの課題(プレゼンテーション) 6回 日本のリプロダクティブ・ヘルスの支援と予防対策(プレゼンテーション) 7回 リプロダクティブ・ヘルスの問題事例の対応:DV・性暴力被害 8回 リプロダクティブ・ヘルスの問題事例の対応:望まない妊娠、人工妊娠中絶 9回 健康教育の概念と理論 10回 相談・教育活動の技術 11回 家族計画、受胎調節実地指導(家族計画の歴史、母体保護法) 12回 家族計画、受胎調節実地指導に関する指導および相談の対応 13回 家族計画、受胎調節実地指導案の作成 14回 家族計画、受胎調節実地指導案の演習 15回 家族計画、受胎調節実地指導案の発表 										
学習方法	助産師にはリプロダクティブ・ヘルスの課題について国内外を問わず多角的に捉え、その対応について考え実践していく能力が求められます。講義は個人発表またはグループディスカッション形式をとります。そのため十分な予習・復習が必須となります。										
オフィスアワー	金曜日の昼休み、もしくは事前にメール(永松:m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp)にてアポイントを取って下さい。										
テキスト	堀内成子 編集:助産診断・技術学I, 第5版. 東京, 医学書院, 2013. 福井トシ子 編:助産師業務要覧 基礎編 新版第3版. 東京, 日本看護協会出版会, 2019.										
参考文献	我部山キヨ子 武谷雄二編集:母子の基礎科学, 第5版. 東京, 医学書院, 2014. 我部山キヨ子 武谷雄二編集:母子の健康科学, 第5版. 東京, 医学書院, 2016. 武谷雄二:エストロゲンと女性のヘルスケア:産婦人科学読本. 東京, メジカルビュー社, 2015. 日本女性医学学会 編:女性医学ガイドブック:思春期・性成熟期 編:東京, 金原出版, 2016. 苛原稔編:不妊症・不育症 改訂3版(インフォームドコンセントのための図説シリーズ). 大阪, 医薬ジャーナル社, 2016. 柴原浩章 森本義晴 京野廣一編著:図説よくわかる臨床不妊症学:一般不妊治療, 第3版. 東京, 中外医学社, 2016.										
評価方法	授業参加度(30%)、プレゼンテーション(40%)、課題レポート(30%)										